

授業力向上だより

I 主題設定の理由

R6年度 研究主題

粘り強く学習に取り組む子の育成～探究的な見方・考え方を働かせる指導～

昨年度の研究成果では、①個別最適な学習、②児童の思考の流れに沿った指導計画、③ゴールイメージ（ねらい）の共有などが挙げられた。研究授業はもちろんのこと、普段の授業でもこれらを授業に取り入れ指導を継続したことで、粘り強く学習に取り組める児童が増えてきたことが、研究成果と言える。また、全クラスで研究授業を行うことで、児童の力が伸びただけでなく教師の授業力が高まったことも、研究成果の一つである。粘り強く学習に取り組む児童を育てるためにどのような授業をしていけばよいか、全員で意見を交わしながら授業を作り上げていくことは、今年度も継続して取り組んでいきたい。一方で、課題や学習方法を選択する力の習得や、ICT活用、学び方の系統性の共通理解、児童の主体性を引き出す教師の力が課題としてあがった。課題改善していけるように、今年度取り組んでいく必要がある。

今年度渋谷区では、探究「シブヤ未来科」がスタートし、総合的な学習の時間が大幅に増加する。年間150時間程度の総合的な学習の時間をどう進めていくか、他の教科との関連や教科横断的な学習、他教科での探究的な学びはどんなことができるのか、新しい試みを行っていく中で、様々な学習方法に挑戦していきたい。

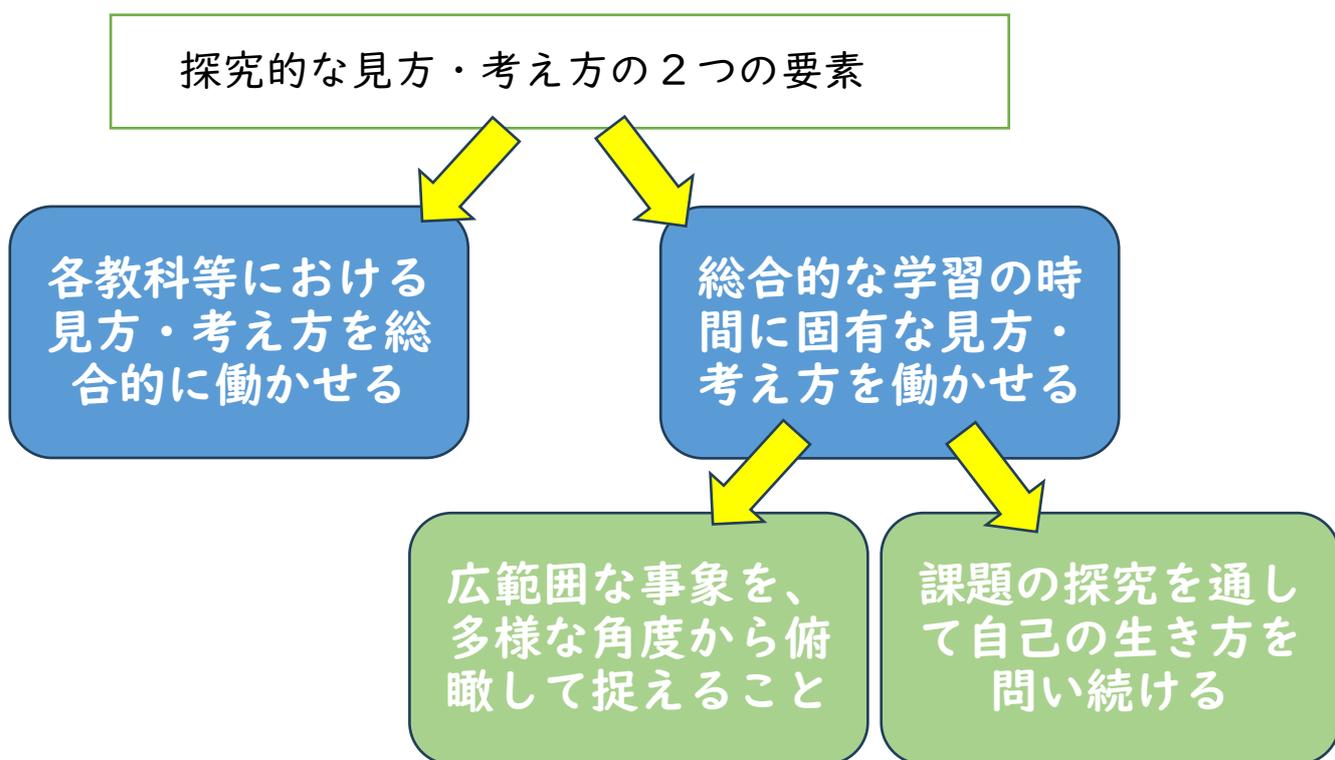
「小学校学習指導要領 平成29年告示」では、総合的な学習の時間の目標について以下のように示されている。

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

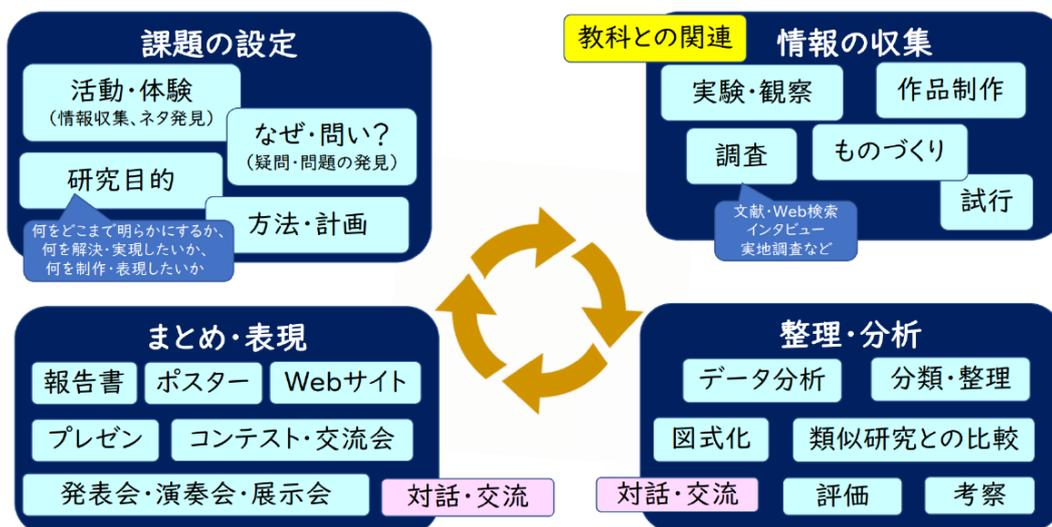
- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探求的な学習のよさを理解するようになる。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

児童は、①日常生活や社会に目を向けた時に湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、自ら課題を見つけ、②そこにある具体的な問題について情報を収集し、③その情報を整理・分析したり、知識や技能に結び付けたり、考えを出し合ったりしながら問題の解決に取り組み、④明らかになった考えや意見などをまとめ・表現し、そこからまた新たな課題を見つけ、更なる問題の解決を始めるといった学習活動を発展的に繰り返していく。要するに探究的な学習とは、物事の本質を探って見極めようとする一連の知的営みのことである。探究的な学習では、次のような児童の姿を見いだすことができる。事象を捉える感性や問題意識が揺さぶられて、学習活動への取組が真剣になる。身に付けた知識及び技能を活用し、その有用性を実感する。見方が広がったことを喜び、更なる学習への意欲を高

める。概念が具体性を増して理解が深まる。学んだことを自己と結び付けて、自分の成長を自覚したり自己の生き方を考えたりする。このように、探究的な学習においては、児童の豊かな学習の姿が現れる。ただし、この①②③④の過程を固定的に捉える必要はない。物事の本質を探ってみ極めようとするとき、活動の順序が入れ替わったり、ある活動が重点的に行われたりすることは、当然起こり得ることだからである。この探究のプロセスを支えるのが探究的な見方・考え方である。探究的な見方・考え方には、二つの要素が含まれる。一つは、各教科等における見方・考え方を総合的に働かせるということである。各教科等の学習においては、その教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、教科等の目標に示す資質・能力の育成を目指す。総合的な学習の時間における学習では、各教科等の特質に応じた見方・考え方を、探究的な学習の過程において、適宜必要に応じて総合的に活用する。(中略)二つは、総合的な学習の時間に固有な見方・考え方を働かせることである。それは、特定の教科等の視点だけで捉えきれない広範な事象を、多様な角度から俯瞰して捉えることであり、また、課題の探究を通して自己の生き方を問い続けるという、総合的な学習の時間に特有の物事を捉える視点や考え方である。(小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編)



参考：【新たな「探究のプロセス」シブヤ版】



今年度も学びに向かう力・人間性等について焦点を当てて研究を進めていく。まずはその単元・本時における探究的な見方・考え方を働かせている児童の姿とはどのような姿なのかを学年分科会で明らかにし、教師が授業の中で価値づけることを明確にしていく。そのような授業を積み重ねることで、児童の学びに向かう力・人間性を高めていきたい。今年度の研究を通して、児童自身が粘り強く学習に取り組むことや探究的な学びのよさや楽しさを感じられるような研究にしていきたい。

2 目指す児童像

粘り強く学習に取り組むことができる子ども（※学校経営方針より）

- ・自ら問いをもち、粘り強く学習に取り組む子
- ・友達の考えを聞き、自分の考えを広げたり、深めたりする子
- ・自らの学習を振り返ることができる子

3 研究の内容・確認事項

【研究授業】

① 探究的な見方・考え方を働かせている具体的な児童の姿を指導案に記載する

→研究授業を行う単元・本時で探究的な見方・考え方を働かせている具体的な姿はどのような姿か、共通理解が図れるように指導案に記載する。

② 教科は低中高でそれぞれ1本以上を生活科、総合的な学習の時間とする

→系統性が見えるように、研究授業の教科は低中高でそれぞれ1本以上は生活科、総合的な学習の時間とする。もう1本は生活科、総合的な学習の時間でもよいし、その他の教科でもよい。その他の教科の場合は、探究的な学習ができる単元を選んで授業を行う。また、各学級が公開する授業も同じ場面でもよいし、違う場面（課題設定場面、まとめの場面、まとめ後の新たな課題設定場面など）でもよい。

【日々の授業】

① 共通したノート指導

→左から2マスは縦線を引く。（日付・曜日・問題・めあて・見通し・自分の考え・友達の考え・振り返りなど）

めあては青色の四角、まとめは赤色の四角で囲む。

② 算数の授業で子供に持たせるもの

→教科書・ノート・筆箱（赤青えんぴつ、定規）・下敷き・タブレット・三角定規・コンパス・分度器を算数バック（図工バックと兼ねる）に入れる。

③ 宿題での計算音読

→計算技能の定着のために、発達段階に合わせてたし算やひき算、かけ算九九等の音読を宿題として行う。

1,342を10倍、100倍、1000倍した数について調べましょう。

① 1,342を10倍、100倍、1000倍した数を求め、次の表に書きましょう。

	千	百	十	一	1/10	1/100	1/1000
1,342の10倍 →				1	3	4	2
1,342の100倍 →							
1,342の1000倍 →							

② 10倍、100倍、1000倍すると、数字の位はどのように変わりますか。

③ 10倍、100倍、1000倍したときの小数点を、 \square 3□4□2□に書き入れましょう。

④ まとめ

ある数を10倍、100倍、1000倍...した数は、その数の小数点を、それぞれ右へ1けた、2けた、3けた...移した数になります。

4 研究授業予定 20240502 現在

月日	内容	指導案検討日
4/10(水)	今年(令和6年度)の研究について	
5/ 1(水)	TLD 探究研修 講師:元渋谷区立西原小学校長 西原小学校学校運営協議会委員 富井 正嗣 先生	
5/ 8(水)	TLD 学年ごとに授業内容検討 講師:元渋谷区立西原小学校長 西原小学校学校運営協議会委員 富井 正嗣 先生	
6/12(水)	6年 研究授業(総合) 東大和市教育委員会 指導主事 廣濱 陽一郎 先生	5/27(月)
7/ 3(水)	4年 研究授業(総合) 講師:元渋谷区立西原小学校長 西原小学校学校運営協議会委員 富井 正嗣 先生	6/17(月)
9/19(木)	2年 研究授業(生活) 講師:墨田区立錦糸小学校 指導教諭 上田 智恵子 先生	9/ 2(月)
10/ 2(水)	1年 研究授業(生活) 講師:元神南小学校長 東京成徳大学 特任教授 齋藤 等 先生	9/15(金)
11/ 7(木)	5年 研究授業(国語) 講師: 山梨大学 大学院総合研究部教育学域 教育実践創成講座(教職大学院) 茅野 政徳 先生	10/15(火)
11/20(水)	3年 研究授業(総合) 東大和市教育委員会 指導主事 廣濱 陽一郎 先生	11/ 5(火)
2/12(水)	今年度の成果と課題について	
3/12(水)	来年(令和7年度)の研究に向けて 西原小学校学校運営協議会委員 富井 正嗣 先生	

5 この後の各学年で話してもらいたい内容(14:25~各学年から発表)

- ・研究授業の教科、内容、他学年のこんな場面が見たい
- ・5月1日について。シブヤ未来科のテーマプロジェクトをどのように進めていくか、どんな人材が必要か等